

「鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査」 結果確報

令和5年（2023年）8月24日
鎌倉市
株式会社ドリームインキュベータ



DI

I. はじめに

II. 調査について

- 調査の目的
- 調査の概要
- 詳細分析の概要

III. 分析結果と成果

- 主な成果
- 学術的な総評
- 鎌倉市としての成果
- ドリームインキュベータとしての成果

IV. クロス集計結果詳細（別紙1）

V. 自由回答一覧（別紙2）

I . はじめに

鎌倉市では、令和5年2月から3月にかけて、「鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査」を実施しました。

ご協力いただきました市民の皆様、誠にありがとうございました。

本調査について、詳細な集計・分析の結果がまとまりましたので、確報としてお知らせします。

この度の公表内容としては、複数の設問を用いたクロス集計の結果をご報告の主な対象としております。自由記述回答も併せて別紙にて公表いたしますので、必要に応じてご参照いただけますと幸いです。

I. はじめに

II. 調査について

- 調査の目的
- 調査の概要
- 詳細分析の概要

III. 分析結果と成果

- 主な成果
- 学術的な総評
- 鎌倉市としての成果
- ドリームインキュベータとしての成果

IV. クロス集計結果詳細（別紙1）

V. 自由回答一覧（別紙2）

調査の目的

本調査は、以下の2つの目的を兼ねて実施しました。

1. 市民アンケート調査において、回答率を向上させる手法・価値の共同研究

- 株式会社ドリームインキュベータ（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長 CEO：三宅孝之）との間で協定を締結し、共同研究を実施しました。
- 調査回答率を向上させることで、従来手法に比べ、より多くの意見を集め、多様な意見を反映したまちづくりを進めることを目指した研究です。
- 調査の実施に当たって、住民基本台帳から無作為に抽出した2グループを形成し、一方にのみ回答率向上施策を実施し、結果を比較しました。
- 結果から、「施策により回答率がどの程度向上するか」、「回答率が高いグループと、低いグループを比較した際、意見分布に差異があるか」を検証しました。

2. 鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査の実施

- 今後のまちづくりに向けて、市民の皆様の生活における「暮らしやすさ」や「満足度」の視点から、鎌倉市の今後注力すべき施策の方向性を検討するために、鎌倉市の暮らしやすさや生活への満足度に対する市民の皆様の意識や価値観をお伺いしました。

- I. はじめに
- II. 調査について
 - 調査の目的
 - 調査の概要
 - 詳細分析の概要
- III. 分析結果と成果
 - 主な成果
 - 学術的な総評
 - 鎌倉市としての成果
 - ドリームインキュベータとしての成果
- IV. クロス集計結果詳細（別紙1）
- V. 自由回答一覧（別紙2）

調査の概要 (1/3)

調査項目		<ol style="list-style-type: none">暮らしやすさについて LWC 指標（暮らしやすさと幸福度の指標）*を基に鎌倉市が設計。生活や人生に対する満足度についてあなた自身のことなどについて
調査設計	調査地域	鎌倉市全域
	調査対象	満18歳以上の市民（2022年11月時点）
	調査対象数	4,000人（各2,000人のAグループ/Bグループ）
	抽出数	住民基本台帳から無作為抽出（鎌倉市の人口動態に応じ、年齢層に抽出数を割付し抽出）
	設問数	Aグループ：全23問 小設問含めると99問 （Aグループには、Aグループに実施した回答率向上施策（後述）について2問追加） Bグループ：全21問 小設問含めると97問

調査の概要 (2/3)

調査方法

調査依頼を郵送し、回答は郵送回答又はインターネット回答

<回答率向上施策>

Aグループのみ、以下の手法を実施

① 事前協力依頼

- 調査対象者に、回答依頼の7日前に、調査対象者になった旨を通知し、協力を依頼。

② 督促

- 調査締切後、未回答の対象者に改めて協力を要請するとともに、締切を延長。

③ 謝礼

- 締切までに回答をいただいた全回答者に、クオカード300円分を贈呈。
- さらに、早期回答者（発送後9日以内）へは200円分を追加し、全体の回答率目標（70%）を達成した場合には、全回答者にさらに200円分を追加。

実施機関

株式会社ドリームインキュベータ（調査にかかる費用はすべて同社が負担）

回答結果 (全体)

Aグループ

有効回答数 1,120 有効回答率 56.0%

Bグループ

有効回答数 646 有効回答率 32.3%

調査の概要 (3/3)

	年代	Aグループ (回答率向上施策有り)			Bグループ (回答率向上施策無し)		
		調査依頼数	有効回答数	有効回答率	調査依頼数	有効回答数	有効回答率
回答結果 (年代別)	18・19歳	21	6	28.6%	24	4	16.7%
	20～29歳	174	66	37.9%	173	23	13.3%
	30～39歳	220	101	45.9%	217	56	25.8%
	40～49歳	346	202	58.4%	344	97	28.2%
	50～59歳	394	232	58.9%	399	126	31.6%
	60～64歳	149	93	62.4%	143	62	43.3%
	65～69歳	119	84	70.5%	116	47	40.5%
	70～74歳	161	100	62.1%	168	57	33.9%
	75歳以上	416	228	54.8%	416	168	40.3%
	未回答	-	7	-	-	5	-

- I. はじめに
- II. 調査について
 - 調査の目的
 - 調査の概要
 - 詳細分析の概要
- III. 分析結果と成果
 - 主な成果
 - 学術的な総評
 - 鎌倉市としての成果
 - ドリームインキュベータとしての成果
- IV. クロス集計結果詳細（別紙1）
- V. 自由回答一覧（別紙2）

詳細分析の概要

鎌倉市の暮らしやすさに特に関わる22問をピックアップし、年齢・地域などの回答者の属性質問などとクロス集計を行い、結果を分析しました。

分析対象	対象領域	<ol style="list-style-type: none">暮らしやすさについて ※LWC指標（暮らしやすさと幸福度の指標）を基に鎌倉市が設計生活や人生に対する満足度についてあなた自身のことなどについて
	対象設問	22問（設問及び分岐・小設問の合計99問中、分析対象領域のものから選定）
分析方法	主にクロス集計による結果を分析 <ul style="list-style-type: none">クロス集計による分析<ul style="list-style-type: none">回答者の属性に関する設問（年齢・性別・世帯構成・居住地域など）をクロスし分析属性以外の設問（地域社会への参画状況・意欲・満足度）も組み合わせて分析単純集計による分析<ul style="list-style-type: none">単純集計から政策検討に十分な結果が出た場合は、その内容を分析	

- I. はじめに
- II. 調査について
 - 調査の目的
 - 調査の概要
 - 詳細分析の概要
- III. 分析結果と成果
 - 主な成果
 - 学術的な総評
 - 鎌倉市としての成果
 - ドリームインキュベータとしての成果
- IV. クロス集計結果詳細（別紙1）
- V. 自由回答一覧（別紙2）

主な成果まとめ

鎌倉市・ドリームインキュベータの双方で、本実証で想定していた成果をあげることができました。

鎌倉市

いただいた多様なご意見を元に、今後の政策検討が進みました。

- 地域の暮らしやすさと生活全般の満足度を起点に、市の“強み”や“弱み”が見えてきたなど、政策検討を行う上で有用な新たな知見を得ることが出来ました。
- その知見を元に、対象とすべき政策領域や年齢層や地域などを見定めつつ、政策検討を進めます。

ドリームインキュベータ

本実証実験において検証を想定していた仮説について、実証することが出来ました。

- 回答率が向上すると見えづらかった傾向が明確に見えるようになる、地域への肯定的な意見が増えるなど、意見分布の差異が生じることが分かりました。
- 意見分布の差異が、市の政策検討に変化を生じることが実証されました。
- 回答率向上が地域生活および生活全般の満足度や各地域の暮らしやすさの表出に与える影響につきましては、本実証実験にて連携している国際大学 山口真一准教授と共に引き続き学術的に分析して参ります。

- I. はじめに
- II. 調査について
 - 調査の目的
 - 調査の概要
 - 詳細分析の概要
- III. 分析結果と成果
 - 主な成果
 - 学術的な総評
 - 鎌倉市としての成果
 - ドリームインキュベータとしての成果
- IV. クロス集計結果詳細（別紙1）
- V. 自由回答一覧（別紙2）



国際大学

山口 真一 准教授

専門： 計量経済学
研究分野： ネットメディア論
情報経済論
情報社会の
ビジネス 等

継続的なエビデンスベースの政策決定につながる

自治体の適切な運営において、住民の意見を調査することは欠かせません。住民の意見を知ることで、初めてエビデンスベースで政策を決めることが出来るからです。

ところが、昨今の住民への意識調査は、回答率が著しく低いことが課題としてあります。例えば今回の調査でも、施策なしの場合の回答率が32.3%にとどまりました。回答率が低い場合、住民全体の意見を調査することは困難になります。特に、市政に特に強い想いを持っている人ほど回答のインセンティブが働くため、一部の強い意見に市政が引っ張られてしまう可能性があります。

そのため、本件のように回答率を高める施策は、より広く住民の意見を収集し、エビデンスベースで政策を決める上で有効です。実際、一部の調査において、回答率の高い場合と低い場合で、大きく分布が異なっていました。

また、このような調査は継続して行うことで、実施した政策へのフィードバックも得ることができます。例えば今回は、生活の満足度と地域の特性・状況への評価との関係性を分析することで、市としての強みと弱みが明らかになりました。調査を踏まえて政策を検討すると同時に、検討の結果実施する政策を住民がどう評価し、生活満足度がどう変化するかを、継続的に追うことで、データに基づいた政策の改善を行うことが出来ます。

- I. はじめに
- II. 調査について
 - 調査の目的
 - 調査の概要
 - 詳細分析の概要
- III. 分析結果と成果
 - 主な成果
 - 学術的な総評
 - 鎌倉市としての成果
 - ドリームインキュベータとしての成果
- IV. クロス集計結果詳細（別紙1）
- V. 自由回答一覧（別紙2）

はじめに：設問の構造と分析の考え方

生活の満足度を最終指標として、他の要素との関わり方から、市として検討すべき政策領域を探りました

設問の構造と意図



詳細分析の方向性：検討すべき政策領域の見つけ方

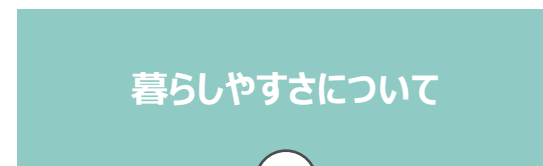
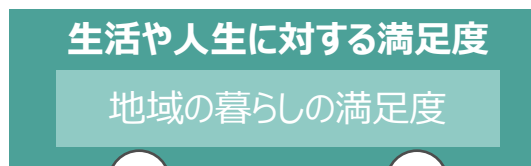
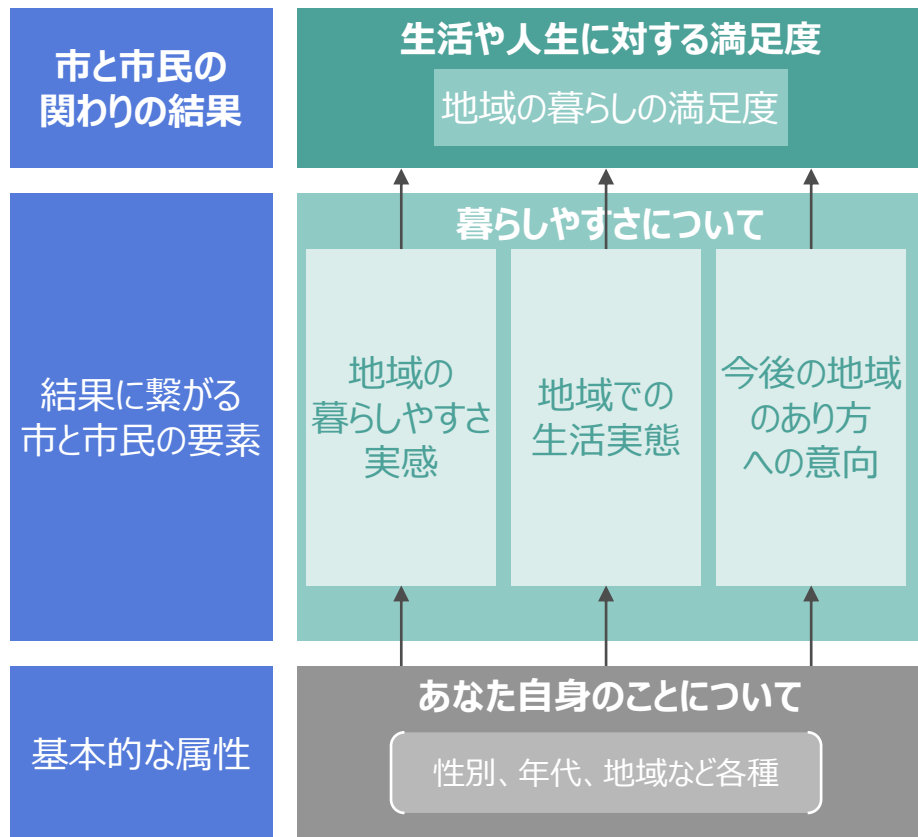
市民の皆様の生活の満足度と、市の要素・皆様の属性との関係性を捉える

満足度とのクロス集計

暮らしやすさとのクロス集計

何が市民の満足度に繋がるか

何が暮らしやすさに影響するか



上記分析を行った結果、鎌倉市とドリームインキュベータ双方で成果が得られました（以降詳細ご案内）

いただいた多様なご意見を元に、新たな政策の検討が進みました。

分析の切り口

検討内容

分析から 見えてきた 強みと弱み	強み	鎌倉の豊かな自然を守り続けることで、市民の暮らしの満足度に繋がるのではないか
		今ある街並みを起点にまちの景観づくりを進めていくことで、市民の暮らしの満足度に繋がるのではないか
		交通の利便性を強化することで、鎌倉市の魅力をより高めていくことに寄与し、市民の暮らしの満足度に繋がるのではないか
	弱み	子育て支援について、より積極的に補っていく必要があるのではないか
住民向けのアクティビティの充実度や参加のしやすさの改善を図っていく必要があるのではないか		
今後の 地域づくり の工夫	デジタル 行政	行政手続きのデジタル化が推進されるほど、市民の生活の満足度が向上する傾向が伺えたが未だ利用率は低いため、より市民が利用しやすい形でのデジタル推進、またその利用を促していくと良いのではないか
	地域 コミュニティ	魅力的な人に出会うことのできる機会を増やすことで、市民の生活の満足度が向上する傾向が伺えたため、地域コミュニティの活性化など地域交流を促す政策を検討を行うと良いのではないか
	公共施設 利用	年代における全体的な傾向は伺えないが、定年退職後に公共施設を利用する方が増えることについて想定ができ、公共施設へのアクセスや利活用方法の改善などの政策の検討を行うと良いのではないか

回答率向上施策、満足度、暮らしやすさ設問との組合せにより、鎌倉市の“強み”、“弱み”を可視化することが出来ました

“強み”・“弱み”の考え方：生活満足度×暮らしやすさ設問

生活全般・地域の暮らしの満足度、暮らしやすさの要素と、各暮らしやすさ要素に満足している人の割合*から“強み”と“弱み”を仮定

“強み”

17/41個

(該当数/暮らしやすさ設問)

生活全般・地域の暮らしの満足度に繋がっている“強み”

- 伸びしろが有れば、さらに育てる対象候補

“弱み”

10/41個

(該当数/暮らしやすさ設問)

生活全般・地域の暮らしの満足度に繋がる一方、現状不満が多く、改善していく対象候補

満足度には繋がり辛いため、“強み”・“弱み”の対象としては劣後

強みにも弱みにもなりづらいもの

0/41個

(該当数/暮らしやすさ設問)

調査から見てきた“強み”・“弱み”の例

- 自宅近辺の街並みは、私の好みに合っている
- 繁華街にアクセスしやすい
- 騒音などが少なく、街が静かである
- 身近に自然を感じることができる
- 自慢できる自然景観がある
- 外部（住民以外）から見た街のイメージがよい

- 家賃や宅地の土地代が安い
- 子供や若者が多い
- 自治体による出産・育児・子育て支援の施策が充実している

次頁以降、分析結果の見方と主な分析結果をご紹介します

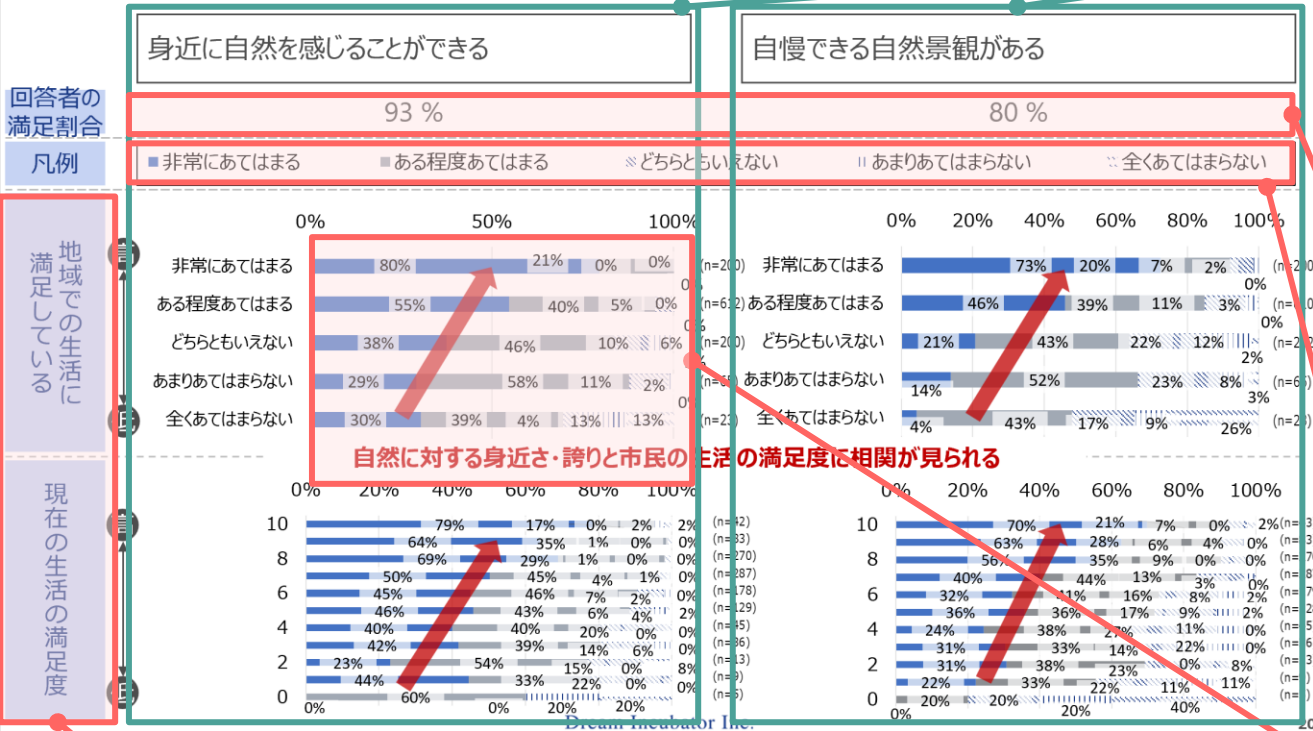
* 暮らしやすさの設問の選択肢の内、“非常にあてはまる”、“ある程度あてはまる”を答えた人の割合と仮定した

分析結果説明ページ

分析から見てきた“強み”：豊かな自然との繋がり

鎌倉市

鎌倉の豊かな自然を守り続けることで、市民の暮らしの満足度に繋がるのではないかと



分析から分かったこと・市としての見解

暮らしやすさに関する個別設問と分析

- 生活満足度等との関係を分析

個別設問に対し「非常に当てはまる」、「ある程度当てはまる」と回答した割合

- 個別設問で伺っている要素について、満足している人の割合
- 頻度を伺う設問では掲載無し

個別質問の回答選択肢

クロス集計の結果詳細

- クロス集計の各回答を選んだ人が、個別設問ではどの回答を選んだのか、を割合で表示
- 赤い矢印は回答傾向を表示
 - 右上がりなら、個別設問の内容と、生活の満足度向上が繋がっている可能性

個別設問とクロス集計する設問（分析の基軸）

- 地域生活の満足度（5段階）
- 現在の生活全般の満足度（11段階）
- 年齢 など

分析から見てきた“強み”：豊かな自然との繋がり

鎌倉の豊かな自然を守り続けることで、市民の暮らしの満足度に繋がるのではないか

身近に自然を感じることができる

自慢できる自然景観がある

93%

80%

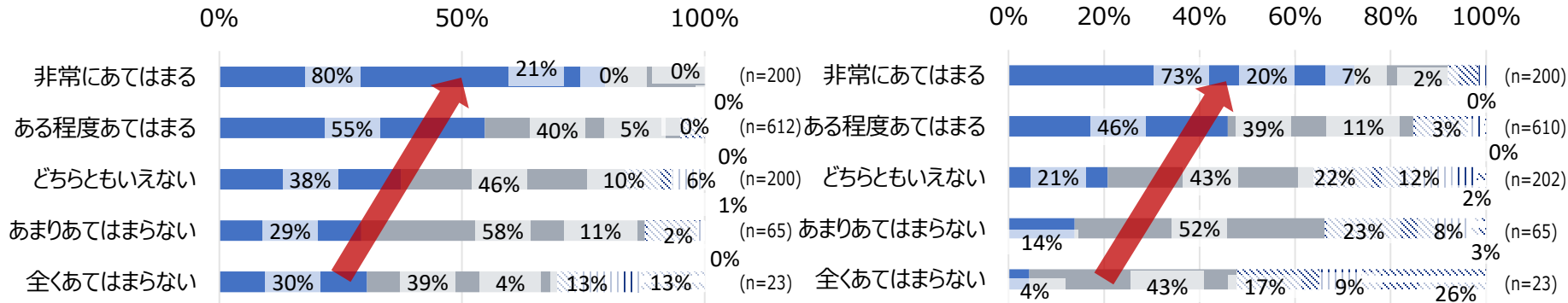
回答者の満足割合

凡例

- 非常にあてはまる
- ある程度あてはまる
- ▨ どちらともいえない
- ▨ あまりあてはまらない
- ▨ 全くあてはまらない

地域での生活に満足している

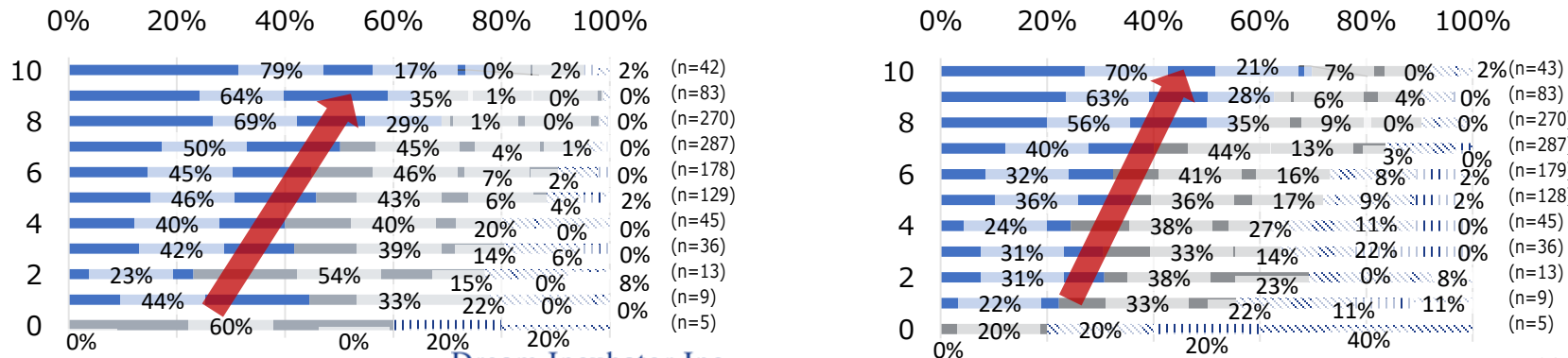
高
↑
↓
低



自然に対する身近さ・誇りと市民の生活の満足度に相関が見られる

現在の生活の満足度

高
↑
↓
低



今ある街並みを起点にまちの景観づくりを進めていくことで、市民の暮らしの満足度に繋がるのではないか

自宅周辺の街並みは、私の好みに合っている

自慢できる都市景観がある

70%

57%

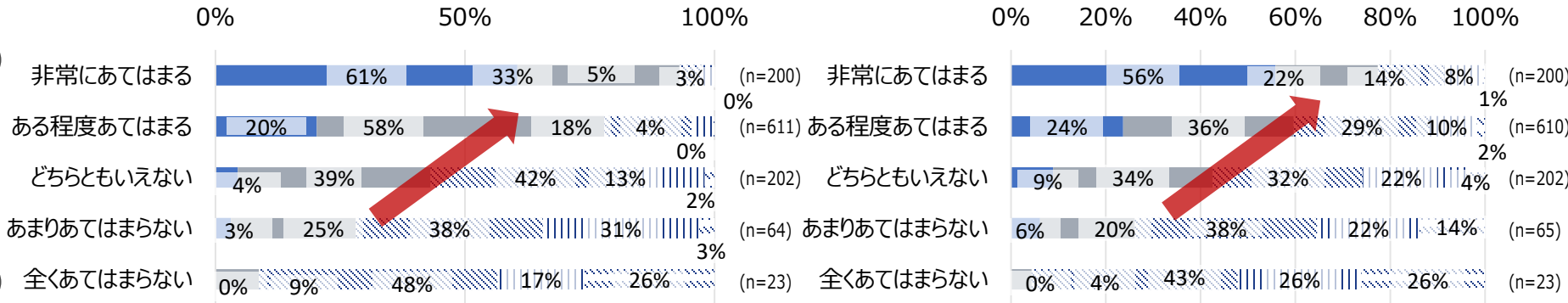
回答者の満足割合

凡例

■ 非常にあてはまる ■ ある程度あてはまる ※ どちらともいえない || あまりあてはまらない ※ 全くあてはまらない

地域での生活に満足している

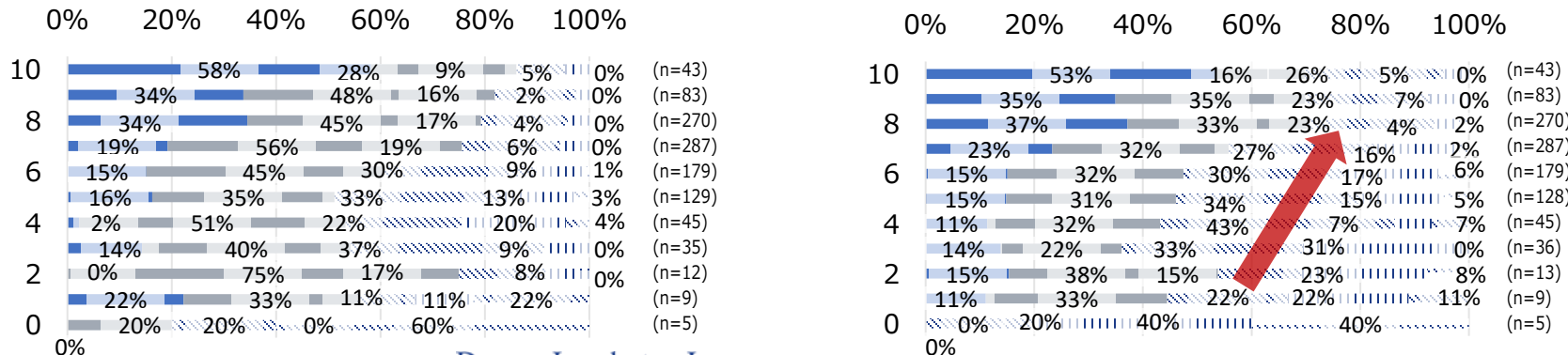
高
↑
↓
低



特に地域生活の満足度と今の都市景観に強い相関が見られる

現在の生活の満足度

高
↑
↓
低



分析から見てきた“強み”：交通の利便性

交通の利便性を強化することで、鎌倉市の魅力をより高めていくことに寄与し、市民の暮らしの満足度に繋がるのではないか

バスや鉄道などの公共交通機関が充実している

繁華街にアクセスしやすい

60%

53%

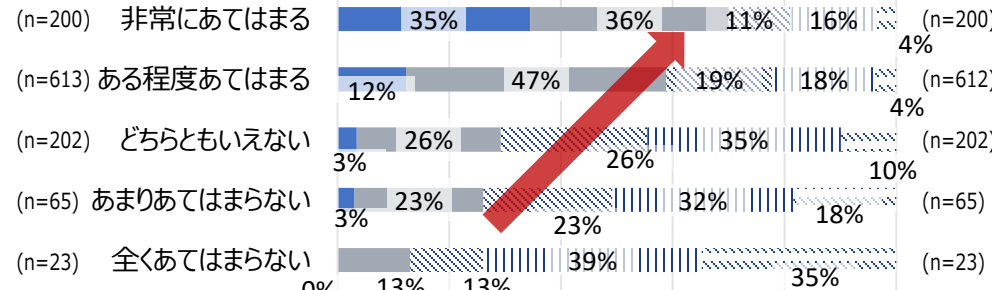
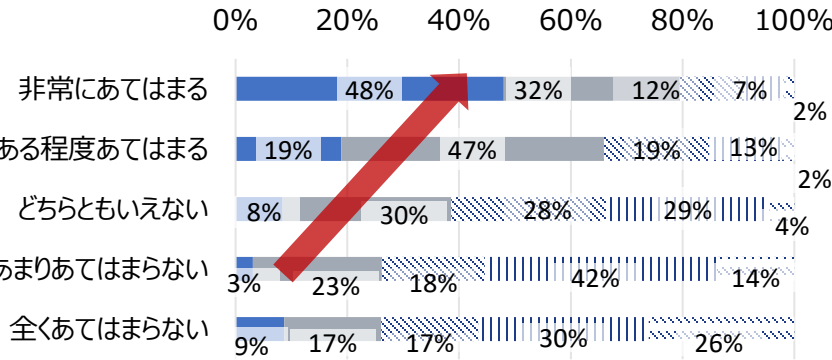
回答者の満足割合

凡例

■ 非常にあてはまる ■ ある程度あてはまる ▨ どちらともいえない ▨ あまりあてはまらない ▨ 全くあてはまらない

地域での生活に満足している

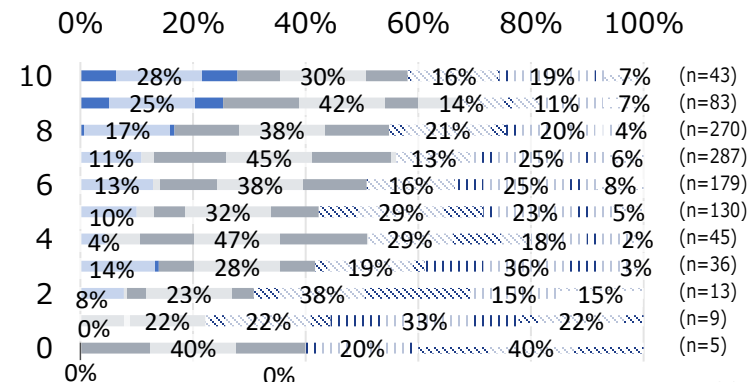
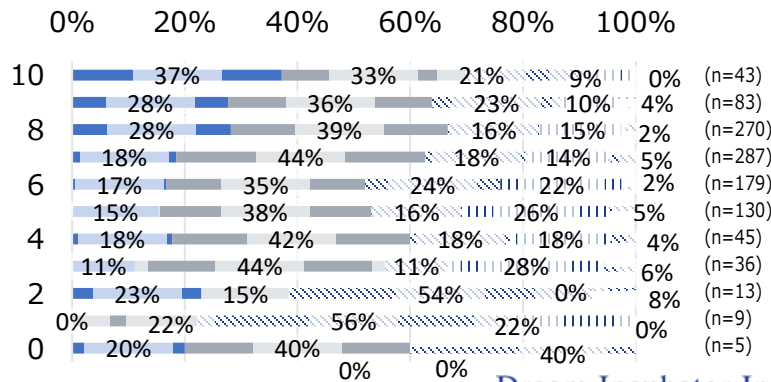
高
↑
↓
低



特に地域生活の満足度と交通の利便性に強い相関が見られる

現在の生活の満足度

高
↑
↓
低



子育て支援について、より積極的に補っていく必要があるのではないか

自治体による出産・育児・子育て支援の施策が充実している

17%

子供や若者が多い

15%

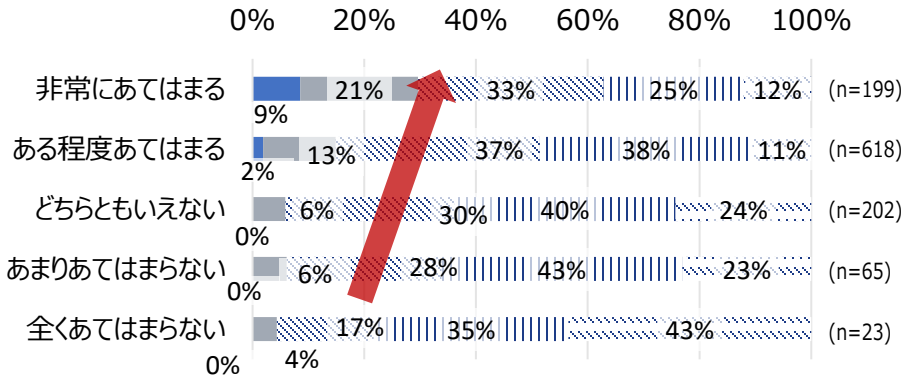
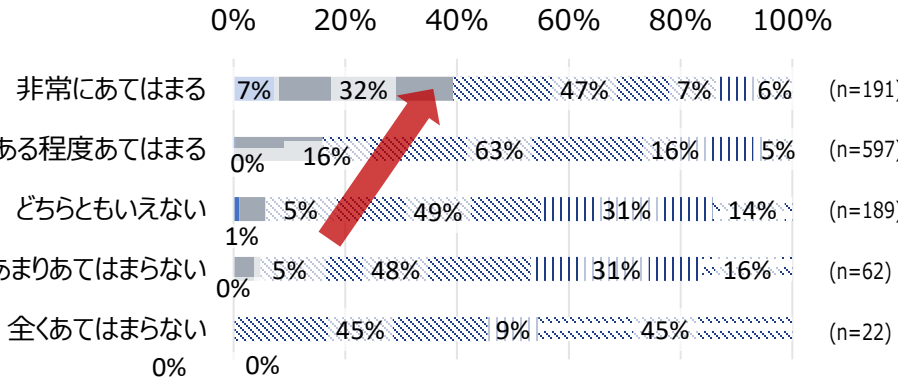
回答者の満足割合

凡例

■ 非常にあてはまる ■ ある程度あてはまる ▨ どちらともいえない ▨ あまりあてはまらない ▨ 全くあてはまらない

地域での生活に満足している

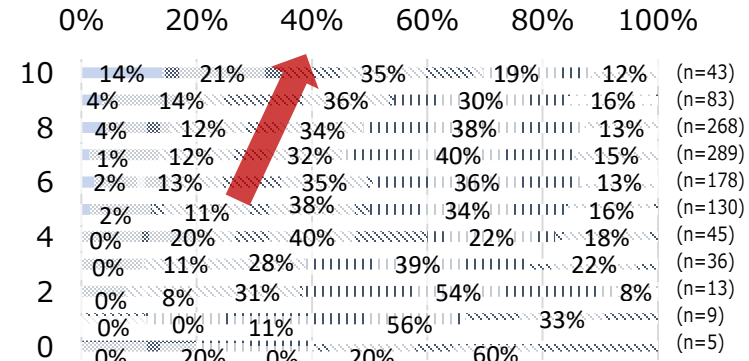
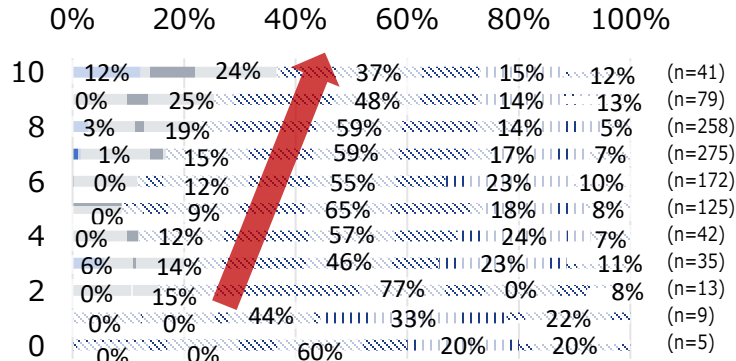
高
↑
↓
低



子育て支援・若年層の多さと満足度に相関が見られるが、満足の全体割合は低い

現在の生活の満足度

高
↑
↓
低



分析から見えてきた“弱み”：地域のアクティビティ

住民向けアクティビティの充実度や参加しやすさの改善を図っていくことが良さそう

地域のボランティアやチャリティに参加した

11%

コンサート、クラブ、演劇、美術館などのイベントで興奮・感動した

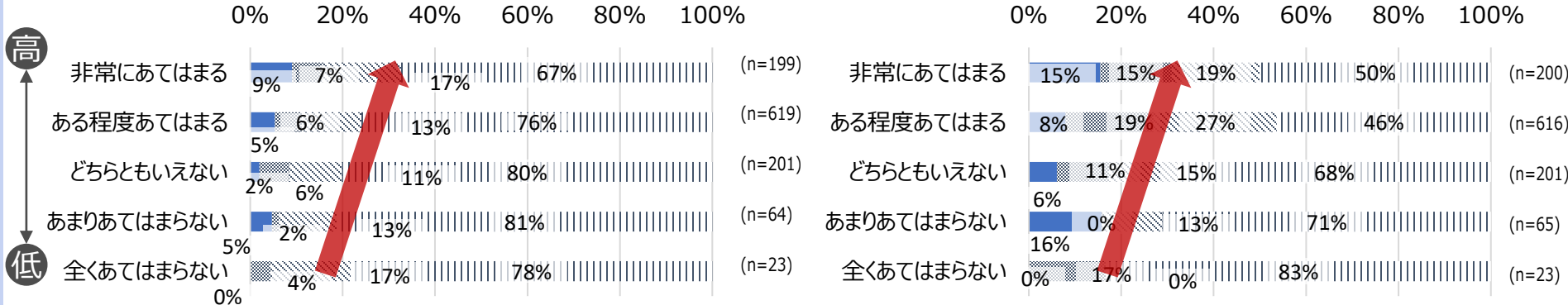
21%

回答者の満足割合

凡例

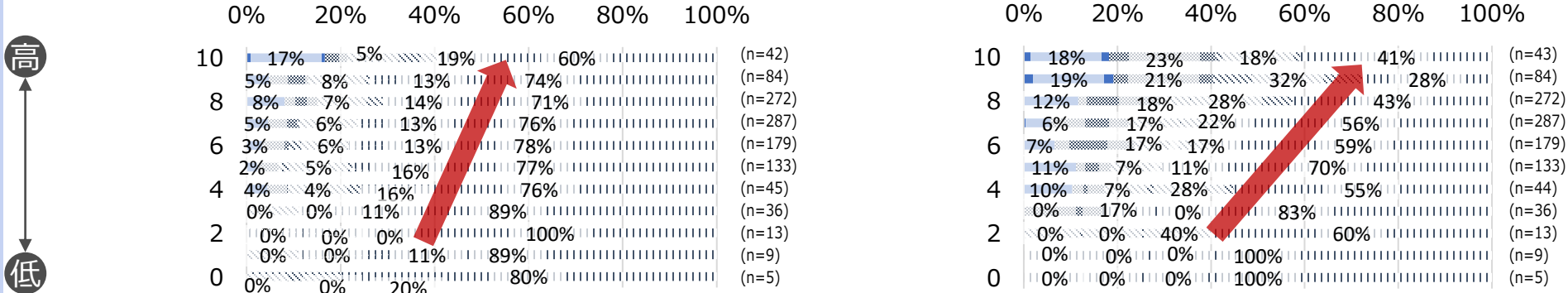
■ 頻繁にあった(月に1回程度) ■ 頻繁ではないが数回あった(4ヶ月に1回程度) ▨ 1~2回あった ▮ ほぼなかった

地域での生活に満足している



住民向けアクティビティの参加頻度と満足度に相関が見られるが、満足の全体割合は低い

現在の生活の満足度



行政手続きのデジタル化が推進されるほど、市民の生活の満足度が向上する傾向が伺えた
が未だ利用率は低いため、より市民が利用しやすい形でのデジタル推進、またその利用を促し
ていくと良いのではないかと

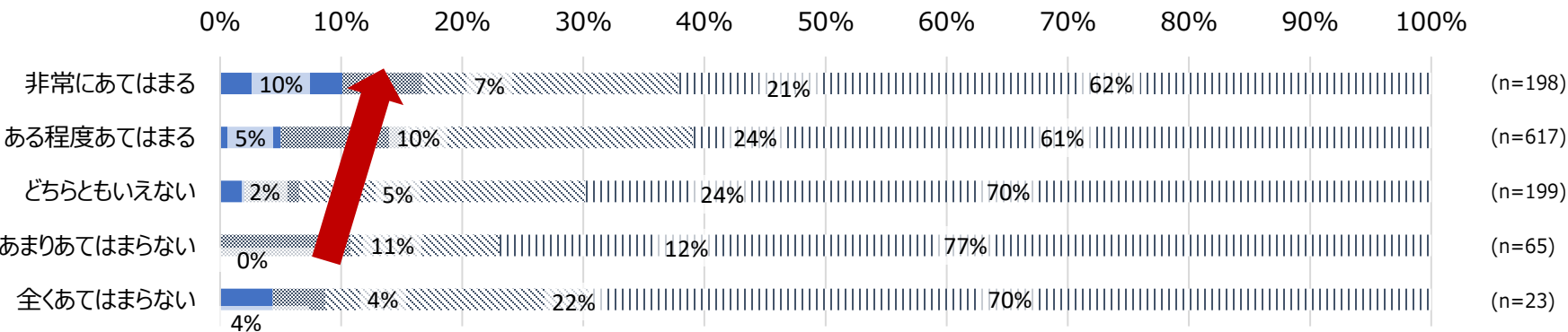
デジタルで諸手続き（行政手続き、引っ越し、確定申告、各種契約）を行った

凡例

■ 頻繁にあった(月に1回程度) ■ 頻繁ではないが数回あった(4ヶ月に1回程度) ▨ 1～2回あった ▨ ほぼなかった

地域での生活に
満足している

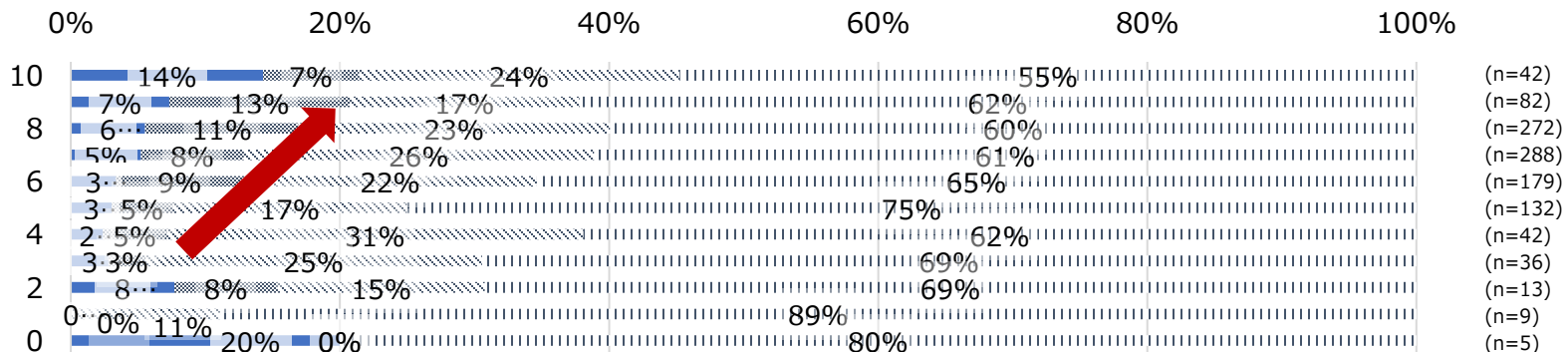
高
↑
↓
低



デジタル行政の利用頻度の多さと、生活満足度との間に相関が見受けられる

現在の生活の満足度

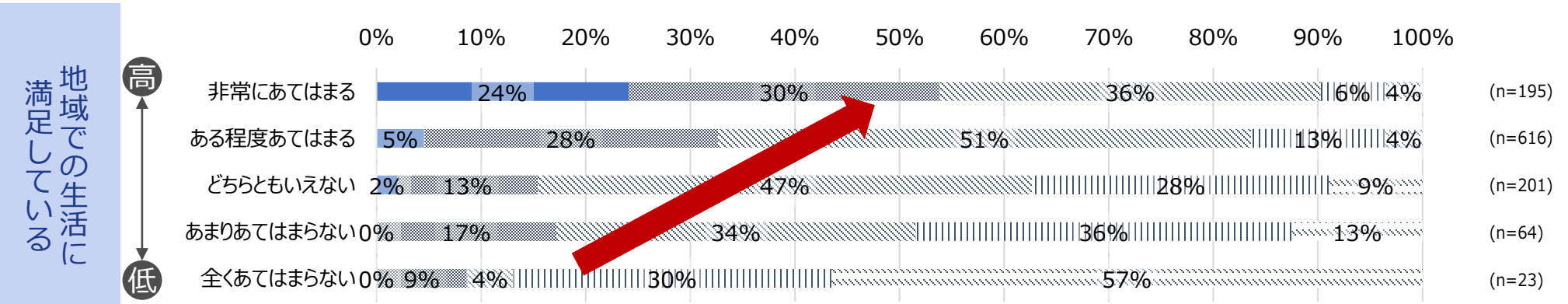
高
↑
↓
低



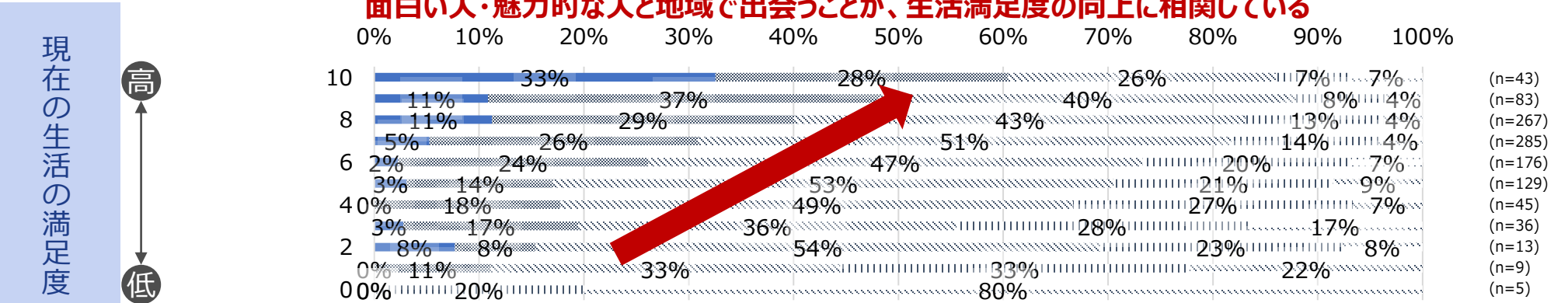
魅力的な人に出会うことのできる機会を増やすことで、市民の生活の満足度が向上する傾向が伺えたため、地域コミュニティの活性化など地域交流を促す政策を検討を行うと良いのではないか

面白い人や魅力的な人が住んでいる

■ 非常にあてはまる ■ ある程度あてはまる ※ どちらともいえない || あまりあてはまらない ※※ 全くあてはまらない



面白い人・魅力的な人と地域で出会うことが、生活満足度の向上に相関している



年代における全体的な傾向は伺えないが、定年退職後に公共施設を利用する方が増えることについて想定ができ、公共施設へのアクセスや利活用方法の改善などの政策の検討を行うと良いのではないかと

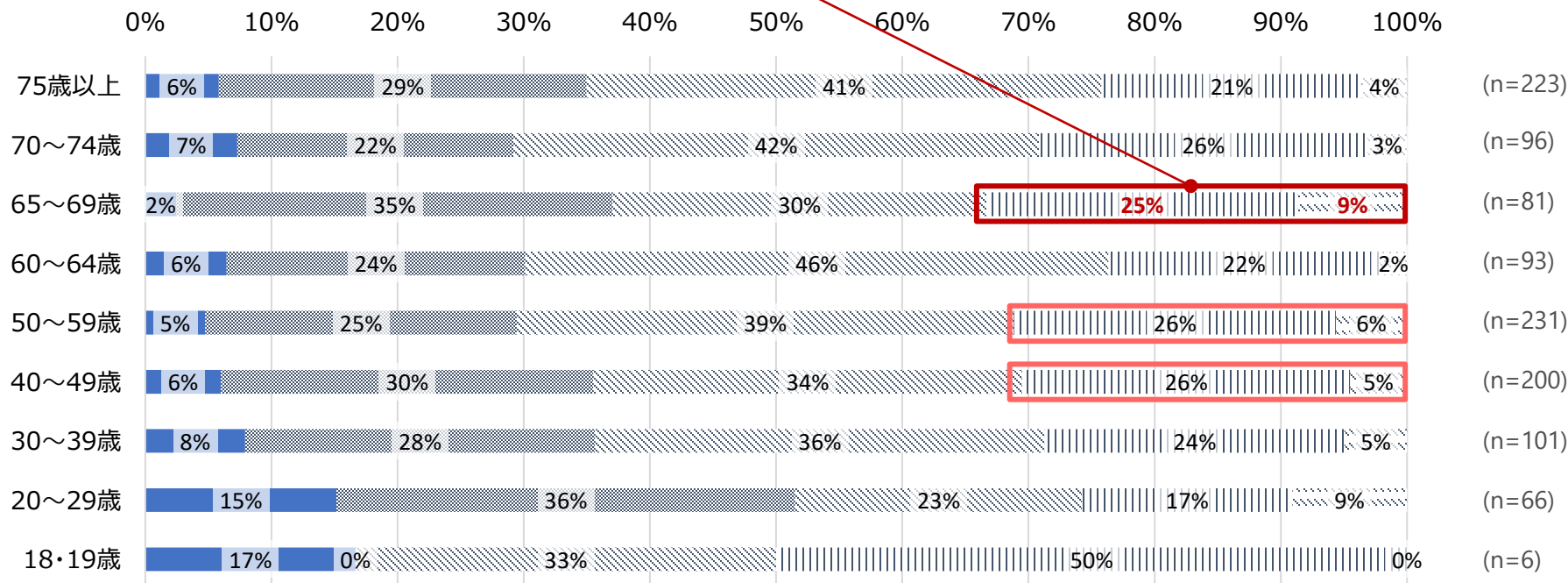
公共施設は使い勝手がよく便利である

■ 非常にあてはまる ■ ある程度あてはまる ※ どちらともいえない || あまりあてはまらない ※ 全くあてはまらない

凡例

年齢

最も不便を感じているのは65~69歳



- I. はじめに
- II. 調査について
 - 調査の目的
 - 調査の概要
 - 詳細分析の概要
- III. 分析結果と成果
 - 主な成果
 - 学術的な総評
 - 鎌倉市としての成果
 - ドリームインキュベータとしての成果
- IV. クロス集計結果詳細（別紙1）
- V. 自由回答一覧（別紙2）

回答率が向上すると、回答の意見分布に差異が生じることに加え、市政に関する市民の意見・意向を聞く場合に、特に差異が生じることが分かりました。

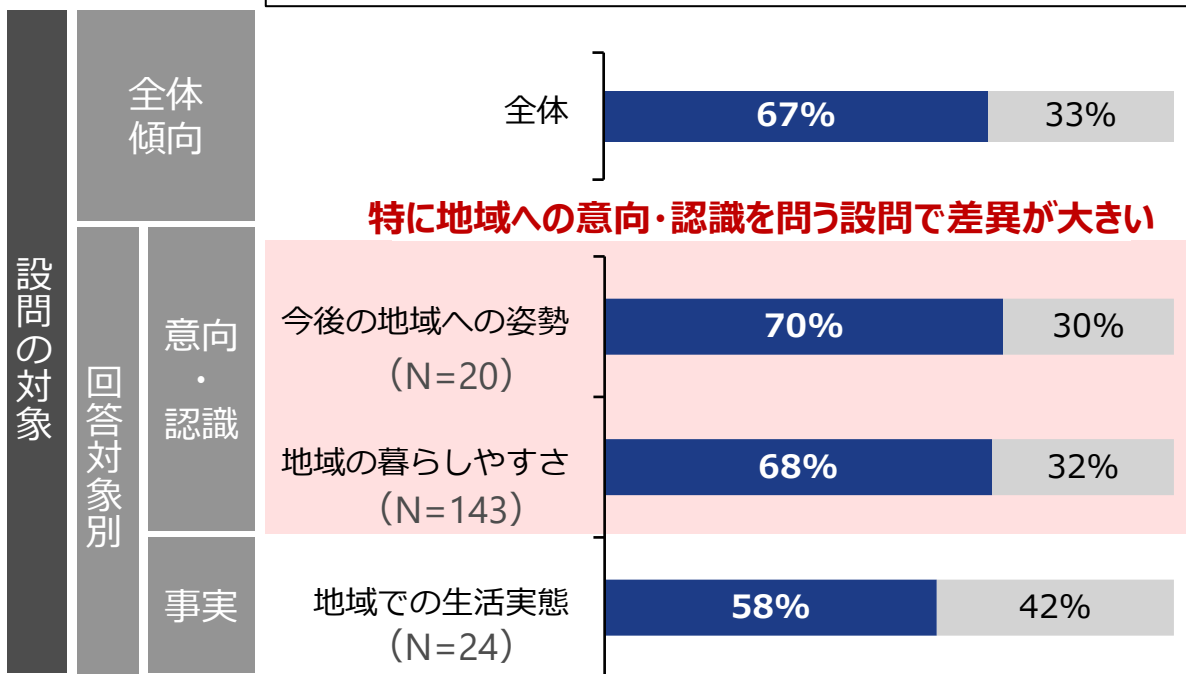
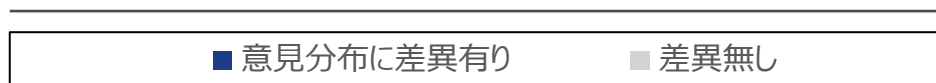
意見分布の差異の発生傾向（A/Bグループ間の比較）

窺えること（DI見立て）

回答率向上により、全体的に意見分布の差異が生じ、特に地域への意向・認識を伺う設問で顕著に発生した

回答率が低い状態では、地域のあり方を問う設問を設定しても、実態と異なる結果が表れる可能性が高い

クロス集計した設問（計187問）での傾向*



- 特に、具体的にどの地域・年代などに課題があるのか、満足度に影響があるか、などクロス分析への影響が大きい



翻ると、今後の地域のあり方を問う調査では特に回答率の影響を考慮する必要がある

次頁にて、差異が見られた主要な設問をご紹介します

* 各設問での回答傾向にA/Bグループで変化があったもの（年齢上がるごとに選択肢増⇒年齢下がることに増など）や、選択肢の割合の上位1位・2位などの順番がA/Bグループで逆転したものを、差異有りとして分類し、分析

意見分布の差異が政策検討に反映され、政策に変化が生じることが実証されました。

	変化前	変化後
1 デジタル行政	<p>デジタル行政をより進めるための根拠が必要だった</p> <ul style="list-style-type: none">市民の満足度に繋がるかは、世の中的にも分かっていなかった	<p>市民の幸福度とデジタル行政利用の相関が明らかになったので、より推進していく</p> <ul style="list-style-type: none">市民に寄り沿ったデジタル化を模索していく
2 公共施設利用	<p>公共施設利用・アクセス向上に努めているが、より踏込む対象を明確化する必要があった</p> <ul style="list-style-type: none">どの年代・地域に課題があるかを探索	<p>退職後世代が公共施設利用により課題を抱えていることが窺え、深掘りし政策を検討していく</p>
3 都市景観	<p>どのような景観の在り方が望ましいのか、政策の起点をどこに置くのか、根拠が必要だった</p>	<p>今の街の景観を活かす形での、街作りを検討していく</p>
4 地域 アクティビティ	<p>地域チャリティ・ボランティアなど地域の活動を今後がどう推進するかが課題だった</p>	<p>地域の活動が市民の満足度に繋がる可能性が見えたため、施策を検討していく</p>
5 子ども政策	<p>子育て支援は行ってきていたが、どれだけ踏み込むべきかは悩みどころだった</p> <ul style="list-style-type: none">市民の満足度にどの程度繋がるのかが論点	<p>若年層が多くいることが、市民の満足度に繋がる可能性があるため、より施策を検討していく</p>

次頁以降、分析結果の見方と主な分析結果をご紹介します

分析結果説明ページ

政策検討の変化：デジタル行政

鎌倉市
ドリーム
インキュベータ

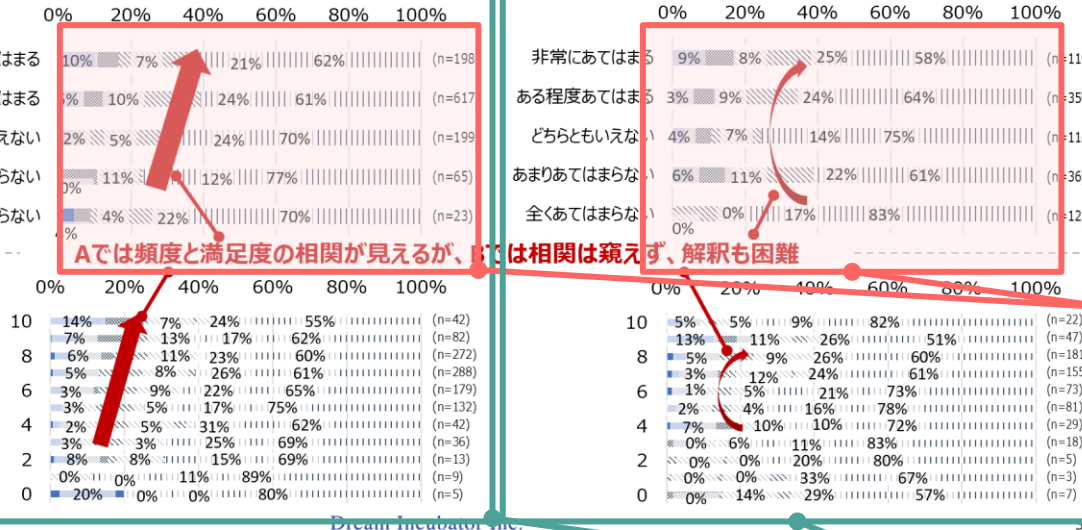
行政デジタル化は満足度に繋がる傾向が初めて明らかになり、より重点化して良さそう

デジタルで諸手続き（行政手続き、引っ越し、確定申告、各種契約）を行った

A（施策あり）

B（施策なし）

■ 頻繁にあった(月に1回程度) ■ 頻繁ではないが数回あった(4ヶ月に1回程度) ※ 1～2回あった □ ほぼなかった



分析を踏まえた鎌倉市の政策変化

暮らしやすさに関する個別設問

- 生活満足度等との関係分析対象

個別質問の回答選択肢

クロス集計の結果詳細

- クロス集計の各回答を選んだ人が、個別設問ではどの回答を選んだのか、を割合で表示
- 赤い矢印は回答傾向を表示
 - AとBで矢印の向きが違う場合、回答率による差異が出ていることを表示

個別設問とクロス集計する設問（分析の主軸）

- 地域生活の満足度（5段階）
- 現在の生活全般の満足度（11段階）
- 年齢 など

調査対象グループごとのクロス集計結果

- A：回答率向上施策を実施（回答率 56.0%）
- B：回答率向上施策は未実施（回答率 32.3%）

行政デジタル化は満足度に繋がる傾向が初めて明らかになり、より重点化して良さそう

設問

デジタルで諸手続き（行政手続き、引っ越し、確定申告、各種契約）を行った

グループ

A（施策あり）

B（施策なし）

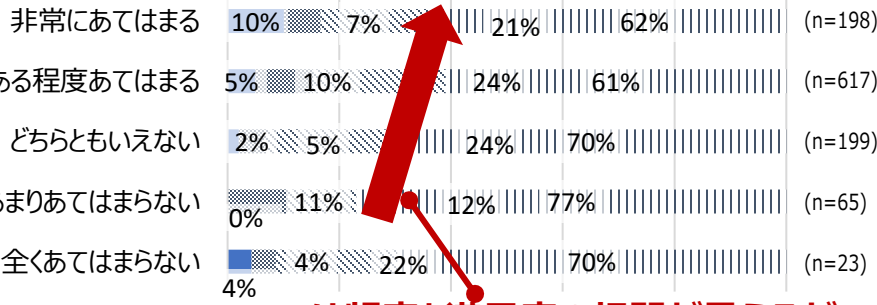
凡例

■ 頻繁にあった(月に1回程度) ■ 頻繁ではないが数回あった（4ヶ月に1回程度） ▨ 1～2回あった ▨ ほぼなかった

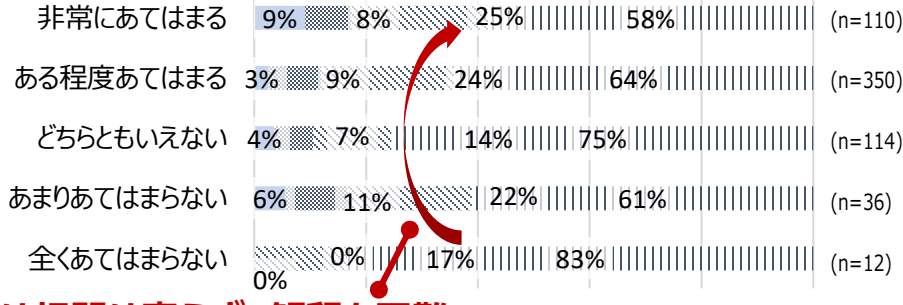
地域での生活に満足している

高
低

0% 20% 40% 60% 80% 100%



0% 20% 40% 60% 80% 100%

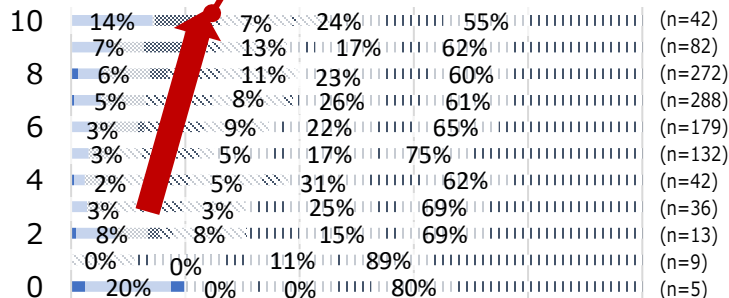


Aでは頻度と満足度の相関が見えるが、Bでは相関は窺えず、解釈も困難

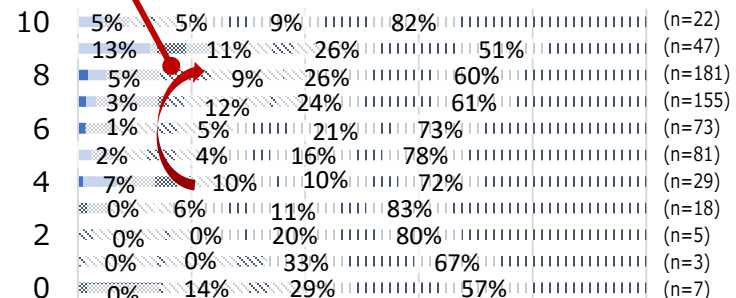
現在の生活の満足度

高
低

0% 20% 40% 60% 80% 100%



0% 20% 40% 60% 80% 100%



退職後世代が公共施設利用により課題を抱えていることが窺え、深掘りし政策を検討していく

設問

公共施設は使い勝手がよく便利である

グループ

A（施策あり）

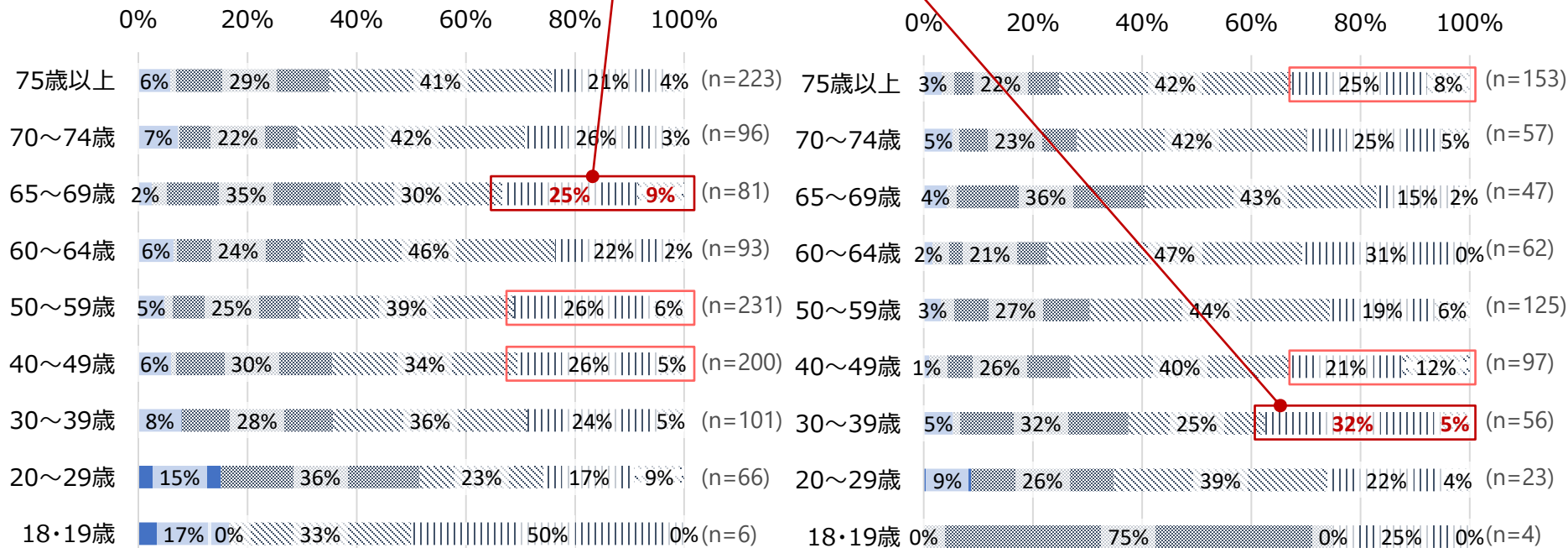
B（施策なし）

凡例

■ 非常にあてはまる ■ ある程度あてはまる ▨ どちらともいえない ▨ あまりあてはまらない ▨ 全くあてはまらない

年齢

Aでは最も不便を感じているのは65~69歳だが、Bでは30代と順位が入れ替わった



今の街の景観を活かす形での、街作りを検討していく

設問

自慢できる都市景観がある

グループ

A（施策あり）

B（施策なし）

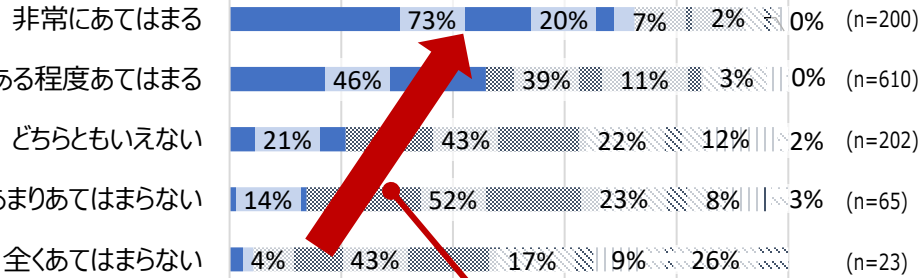
凡例

■ 非常にあてはまる ■ ある程度あてはまる ※ どちらともいえない || あまりあてはまらない ※ 全くあてはまらない

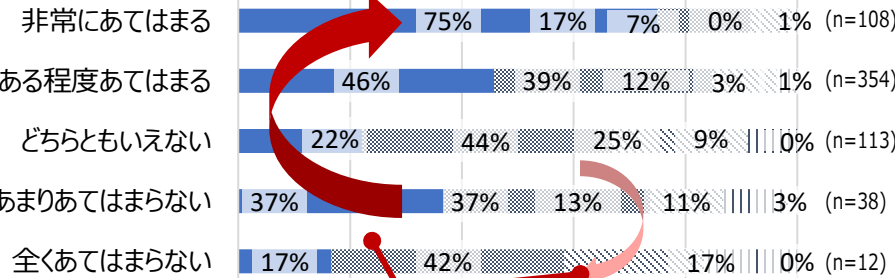
地域での生活に
満足している

高
↑
↓
低

0% 20% 40% 60% 80% 100%



0% 20% 40% 60% 80% 100%

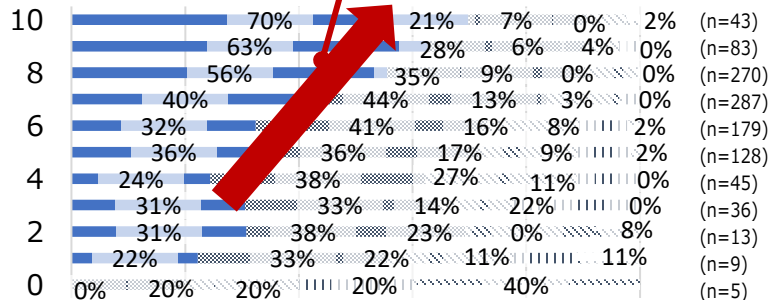


Aでは頻度と満足度の相関が明確に見えるが、Bでは相関が明確には現れず

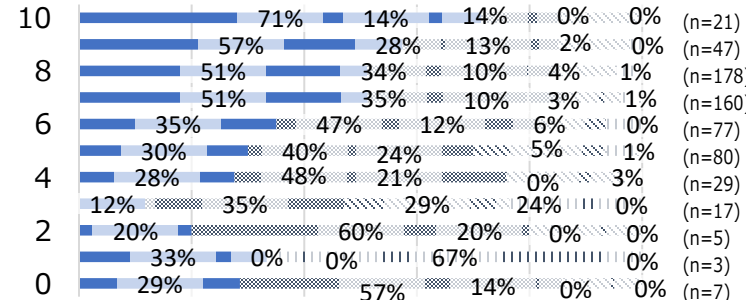
現在の生活の満足度

高
↑
↓
低

0% 20% 40% 60% 80% 100%



0% 20% 40% 60% 80% 100%



地域の活動が市民の満足度に繋がる可能性が見えたため、施策を検討していく

設問

地域のボランティアやチャリティに参加した

グループ

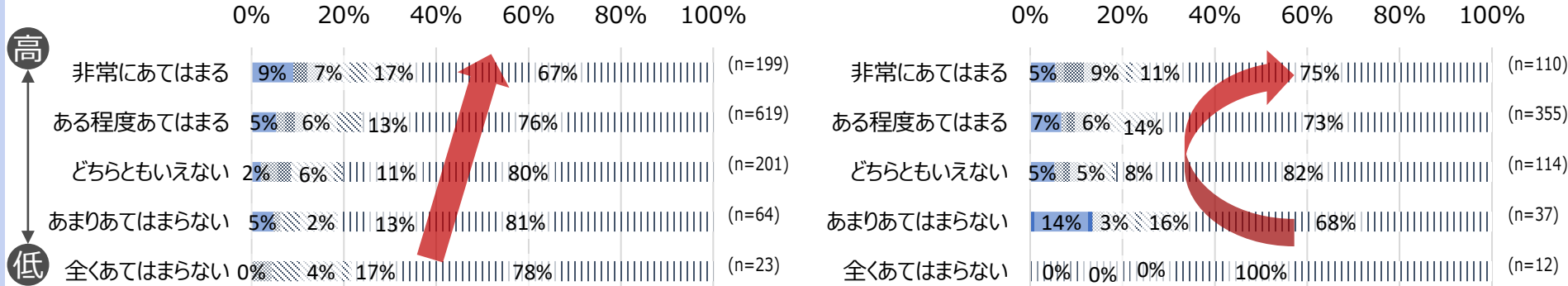
A

B

凡例

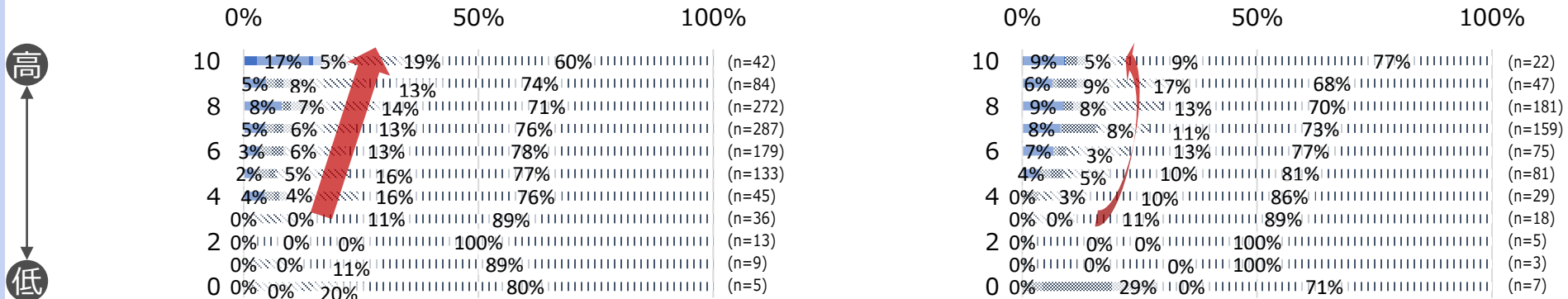
■ 頻繁にあった(月に1回程度) ■ 頻繁ではないが数回あった(4ヶ月に1回程度) ※ 1～2回あった || ほぼなかった

地域での生活に満足している



Aでは頻度と満足度の相関が明確に見えるが、Bでは相関が明確には現れず

現在の生活の満足度



若年層が多くいることが、市民の満足度に繋がる可能性があるため、より施策を検討していく

設問

子供や若者が多い

グループ

A (施策あり)

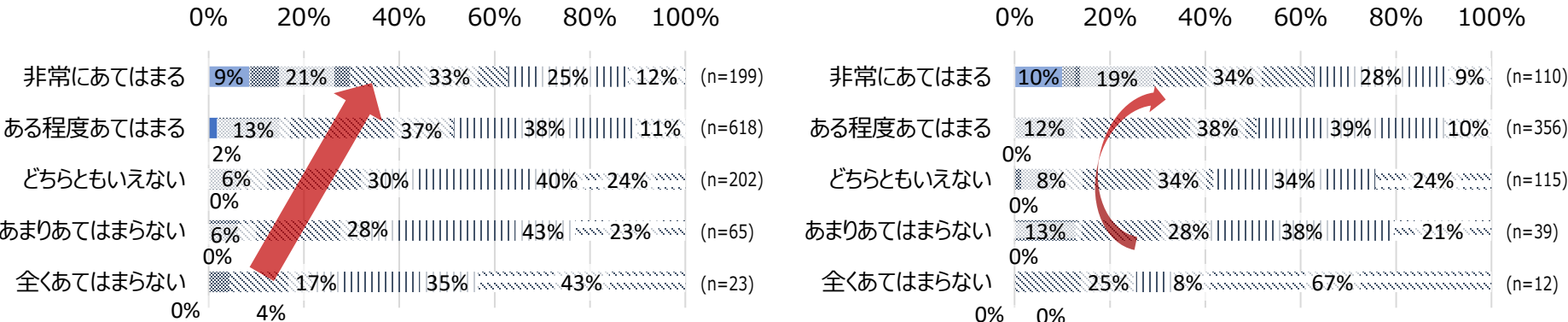
B (施策なし)

凡例

■ 非常にあてはまる ■ ある程度あてはまる ※ どちらともいえない || あまりあてはまらない ※ 全くあてはまらない

地域での生活に満足している

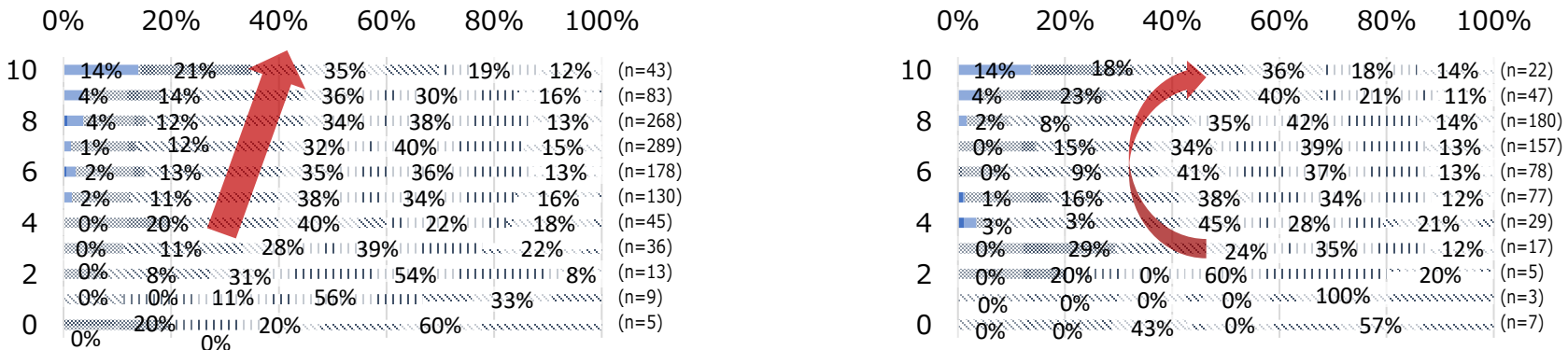
高
↑
↓
低



Aでは頻度と満足度の相関が明確に見えるが、Bでは相関が明確には現れず

現在の生活の満足度

高
↑
↓
低



目次

- I. はじめに
- II. 調査について
 - 調査の目的
 - 調査の概要
 - 詳細分析の概要
- III. 分析結果と成果
 - 主な成果
 - 学術的な総評
 - 鎌倉市としての成果
 - ドリームインキュベータとしての成果
- IV. クロス集計結果詳細（別紙1）
- V. 自由回答一覧（別紙2）

} 各別紙をご参照ください